

## ギニア月報（2025年3月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 5日、バ・ウリ首相は2025年内の民政移管の完了を約束する。
- 14日、政党評価の最終的な結果が発表され、27党が解散となったほか、主要野党含む24党に対し、90日間の活動停止が命じられる。
- 28日、ドゥンブヤ暫定大統領はダディス・カマラ氏に恩赦を与える。

#### 【外政】

- 7日、仏外務省がギニアの民政移管の遅延を批判したことに対し、クヤテ外務大臣が内政干渉であると反論。

#### 【経済（開発協力含む）】

- 25日、中国政府はギニアに対し、公共エリアの監視制度構築のため50百万ユーロの支援について合意。

### 1 内政

- ・ 4日、政党PGD/RDAは、反CNRDの政治運動Union sacré des Forces vivesからの撤退を発表。
- ・ 5日、バ・ウリ首相は、当地における電力不足問題を解決するため、1ギガワットの供給増を目指すことを約束。
- ・ 5日、バ・ウリ首相は、記者会見において、2025年内の民政移管の完了を約束し、また、ドゥンブヤ暫定大統領の大統領選出馬の可能性について述べた。
- ・ 5日、UFDG 党員のマイムナ・バー氏の弁護士は、同氏が脅迫や誘拐の危機にさらされていると発表。
- ・ 6日、9名の専門家による憲法草案の再検討パネルが設置された。
- ・ 9日、コナクリ市ハムダライ地区にて、ドゥンブヤ暫定大統領の肖像の設置に反対する若者らによる暴動が発生し、治安部隊が動員された。
- ・ 11日、ジバ・ジャキテ首相府官房長官の主導により、市内の歴史建造物セク・

トゥーレイヤの修繕が開始。

- ・ 14日、国土行政・地方分権省（MATD）による政党評価の最終的な結果が公開された。27政党が解散させられ、24政党（主要野党 RPG、UFR、UFDG 含む）に対し、是正期間として90日間の政治活動の禁止が命じられる。
- ・ 17日、ECOWAS 裁判所は、ギニア政府が FNDC メンバーに対し人権侵害を行ったと裁定。
- ・ 21日、経済汚職裁判所（CRIEF）検察官は、セルー・ダレン・ディアロ氏を汚職、横領、マネーロンダリング、不正貯蓄の容疑で起訴することを発表。
- ・ 24日、政党 UFDG は4月19、20日に予定されていた党集会の延期を発表。
- ・ 26日、MoDeL 党首のアリウ・バー氏の公判が開始。
- ・ 28日、ドゥンブヤ暫定大統領は、2008年9月28日事件の主犯として服役していたダディス・カマラ氏に対し、同氏の健康を理由に恩赦を与える。

## 2 外交

- ・ 2日、プリズム郵便・電気通信・デジタル経済大臣は、バルセロナで開催されたワールド・モバイル・ कांग्रेस（WMC）に出席。
- ・ 7日、仏外務相報道官がギニアの民政移管の遅れについて懸念を述べたことに対して、8日、クヤテ外務大臣はギニアへの不干渉を求める反論を行う。
- ・ 10日、モーリタニア外相が当地を訪問し、クヤテ外務大臣と会談。

## 3 経済（経済協力含む）

- ・ 12日、カンカン-クルサ間の道路工事をおこなう中国・Henan China 社の従業員が労働状況の改善を求めデモを実施。
- ・ 13日、スマー経済・財務大臣は、カグベレン-タネネ間の道路工事について覚書に署名。

- ・ 22日、ドゥンブヤ暫定大統領はモリバヤ港を訪問し、シマンドゥ鉄鉱山開発計画の現場を視察。
- ・ 25日、ビシクリマ-ディンギライエ間の道路の舗装工事が開始。
- ・ 25日、中国政府は「Guinea Safe City」プロジェクトの一環として、ギニアに対し、公共エリアの監視制度構築のため50百万ユーロの支援について合意。

(了)